

Career Up Stage

卒業スペシャル第2弾、今回は「生徒の言葉」を紹介します。人との出会い・縁を大切に、先生方やお世話になった人々たちへの感謝の気持ちを忘れずに生きてください。

心に残る生徒の言葉

卒業スペシャル 「生徒からの言葉」

FMラジオ番組の中に「ありがとう先生」というコーナーがあり、リスナーからのハガキを読み上げるもので、学生時代に言われた今でも印象に残っている先生の言葉を紹介しています。

今回は、その逆で生徒から先生への言葉とエピソードを紹介します。先生への感謝の気持ちで共感できる言葉があれば、卒業に向けて先生に気持ちを伝えてください。

私は先生の記憶に残る生徒になれたでしょうか。

看護師を目指す生徒の勉強に粘り強くつきあい、見事合格。卒業の時に、彼女から感謝とともに言われた一言です。私が教えた中でも抜群にがんばった、すばらしい生徒です！

先生に手を握ってもらったら、落ち着いてできました。

文化祭で劇に出演する生徒がひどく緊張していたので、そっと手を握りました。終演後、その生徒がかけてくれた言葉です。コロナが終息し、あたたかい気持ちが伝わる握手ができるようになるとうれしいです。

一番の思い出は、私よりも私のことを知っている先生に出会えたこと。

受験を控えた面接の練習で「高校で一番の思い出は？」という問いに対して、返ってきた答えです。一緒に過ごした日々をこのように感じてくれていて、胸が熱くなりました。

私たちが変わったんじゃなくて、先生が私たちを変えてくれたんです。

中学1年生の3学期。英語の授業中、一生懸命、課題に取り組む生徒たちに「変わったねえみんな！」と褒めたら、生徒から言われました。こっちが感動してしまいました。

先生だと思ってないよ！ だから本音で話せるじゃん。

担任していた子どもたちから言われました。“先生と生徒”以上の絆を築けたと思うと、うれしく思います。彼らはこの3月に小学校を卒業しました。みんな、おめでとう。

今でも心に残る 「先生の言葉②」

努力は必ず報われるわけではないが、努力しなければ何も始まらない。

高校受験を控え、焦りと不安でいっぱいだった私に、担任の先生がくれた言葉です。「今できることを精一杯しよう！」と前向きな気持ちになれました。大人になった今も、よくこの言葉を思い出します。

前向きに生きることはもちろん、後ろを振り返る優しさも大切

中学の卒業式で先生がくれた言葉です。この言葉を聞いて、他人を大切にする気持ちや感謝の気持ちをいつまでも忘れずに高校でもがんばろうと思えました。

悩みには必ず期限がある

中学時代、家族とも友だちともうまくいかず、居場所がなかった私に保健室の先生がくれた言葉です。救われた気持ちになりました。

この先生に憧れて、私は保健室の先生の免許を取りました。

優しさとは、憂いのある人に、そっと寄り添える人のこと

中学の担任の先生がくれた言葉です。「優しい」という漢字を例に出して、この話をしてくれました。

今でも、先生の言うような「優しい人」になりたいと思い続けています。

部活でソフトボールを学ぶのではなく、ソフトボールから学びなさい

中学の部活動の監督がくれた言葉です。ソフトボールを通じて出会った人やその経験を大切にしてくださいと言われ、今でもずっと心に留めています。中学の部活動で学んだことは一生忘れません。

やりたいって気持ち、それがいちばん大事な才能です

中学時代までずっと野球をやってきましたが、高校からまったく別のスポーツを始めようと思って顧問の先生に相談したら、この言葉をもらいました。迷っていた自分の背中を押してくれ、先生には感謝しています。

自信とは、自分がやってきたことを信じること。

中学の卓球部の試合で、対戦相手にビビっている私に顧問の先生が一言。おかげで一生懸命練習してきたことを思い出し、気持ちが吹っ切れて、全力で試合に臨むことができました。

リーダーになるなら嫌われる覚悟を

中学時代、弱小だったソフトテニス部で部長をしていました。勝てるチームにたくて奮闘していましたが、部員とうまくいかず、自信をなくしていたら、先生が一言。

部長としてやるべきことを徹底してやることができ、試合で結果を残すことができました。

できないんじゃないくて、やっていないだけ

幼稚園生のころの私は、すぐに「できないからやって！」という子どもでした。そんな私に担任の先生がかけた言葉です。

30年近く経った今でもよく覚えています。

「ほうきを持ってきて」と言ったら、ちり取りも一緒に持ってくる子です

小学生の時、私のことを、先生が母にこう褒めてくださいました。

それ以来、自分の誇りとして、そして人生の教訓として、いつも心に留めています。

ひとつだけでもいい。好きで得意なことを見つけてください。それが自信につながります

小学校の卒業式で校長先生がくれた言葉です。将来の夢もなく、他の人と比べてばかりだった私ですが、その言葉から豊かさみたいなものに気づき、勇気をもらいました。

誰かのために生きる人生は、自分のために生きる人生よりはるかに価値がある

高校の部活動の先生はボランティアに積極的で、ゴミ拾いなど、部活動以外にもいろいろな経験をさせてくれました。

おかげで人の役に立ちたいと思うようになり、医療の道に進みました。

実らなかった努力は教養になります

高校時代、古典の先生が授業中にポロツとおっしゃった言葉です。

努力の意味について初めて考えました。

実らなくても努力する価値があるとわかったのは、先生のおかげです。

逆境は人としての真価が問われる時

大学卒業して教師になる時に、先生がくれた言葉です。

思いも寄らなかった学校で、落ち込んでいた私を励ましてくれました。

この言葉を支えに、その場所で教師としてのスタートを切り、今も教職を続けています。

未来のあなたが戻りたくなるのは今かも知れない。まだ間にあう今から頑張れ。

受験を意識した高2の春休み。「勉強していればよかった。1年に戻りたい」とこぼしたら先生に言われました。

この言葉で奮起し、手の届かなかった大学に合格できました。

「いちおう」をつけて話すな。

高校の最初の授業で自己紹介した時に、「中学校ではいちおう卓球部でした」と言ったら、先生が一言。卓球が好きなのに、地味だと思われるのが嫌で、「いちおう」を付けてごまかした自分が恥ずかしくなりました。

おかげで胸をはる事ができ、高校でも卓球を続けました。

頼まれたこと以上の働きをして初めて信頼してもらえる

学生時代、野球部のキャプテンをしていた時に監督からもらった言葉です。おかげで自分のやるべきことが明確になり、一生懸命に取り組むことができました。

結果、監督や部員のみならず信頼を得ることができました。

何もしなければ失敗はしないけど、得るものはない

高校3年生の時、一時休学し、受験も控えていたので不安な毎日を送っていました。

そんな時に先生から一言。苦手だと思って逃げていても何も始まらないと思ひ直すことができました。

向いているか向いていないかじゃない。あなたがやりたいかどうか、です

教育実習で指導教官に「先生に向いていない」と言われ、落ち込んでいた私に、大学教授がくれた言葉です。その後努力して、今は夢だった特別支援学校の教員として働いています。

なぜ、琉球・沖縄史を学ぶのか

沖縄の黄金言葉に、「慶良間や見ゆしがまちげー見いらん」(慶良間は見えるが、まつげは見えない)があります。

遠くにあるものや、遠方でおこっている出来事には気づけても、身近にあるものや、身のまわりでおこっている出来事には気づかない時などに使われる言葉です。

私たちにとって、あまりに当たり前なことが、実はすごく大切だということを教えてくれる言葉です。

沖縄学の父といわれる伊波普猷は、「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、琉球・沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを述べています。

自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからである。そこを掘りおこし、見つめ直すことが、全てのものの見方、考え方を養う礎になります。

琉球沖縄を学ぶ意義として、沖縄という地域で、私たちの祖先がどのように独自の歴史を形成してきたのか、先人の足跡を学ぶことによって沖縄に生きる者としての、自分自身のアイデンティティを図ることができるのです。

金城中学校生徒の皆さんの将来の夢は大きく、沖縄で一生をすごす人、沖縄から旅立ち本土や世界各地で活躍する人もいます「汝の立つところを深く掘る」ことにより将来、どこで暮らすことになっても、皆さんを育てきた「沖縄」という豊かな泉が、皆さん自身の力強い支えになってくれます

皆さんと沖縄の歴史は切っても切り離せない関係にあり、皆さんの個性を考える上で、沖縄の歴史を知るとはとても重要なことです。

沖縄の歴史を知ること、私たちが住む沖縄を取り巻く社会の基盤を深く知ることができ、私たちのアイデンティティを知ることにつながります。

グローバル化が進む今日、私たちのアイデンティティを理解した上で、他国の人と接することで、その国の事も知ろうという意識が芽生え文化交流が盛んになります。

グローバルな視野を持って活動するには、足元の沖縄の歴史について、常に念頭に考え、学習することが重要であります。